

令和 8 年度 第 1 回市川市博物館協議会

日 時 令和 8 年 8 月 6 日 (木)
午後 2 時 ～ 4 時
会 場 市立市川歴史博物館 2 階講堂

会 議 次 第

1. 議 題

(報告事項)

- ・ 令和 7 年度 事業実施状況に対する自己評価について

(協議事項)

- ・ 令和 7 年度 事業実施状況に対する外部評価について

2. その他

- ・ 博物館事業実施評価 評価基準の見直しに係る課題の検討について
- ・ 博物館基本的運営方針について
- ・ 次回協議会（開催日程等）について

令和7年度 考古博物館 事業実施状況評価

評 価 A:参加者数、内容、満足度全てに見込み以上の成果を得た
 B:ほぼ見込み通りの成果を得た
 基 礎 C:改善の余地あり D:実施を含めて検討の要あり
 準 - :事業未実施のため、評価できず

事業名		目標又は予定	実施及び達成状況	評価	評価根拠	次年度への課題等
収集・保管及び調査研究事業	収蔵資料の調査研究及び整理	年間を通して実施する。	年間を通して実施した。	B	文化財保護事業や市史編さん事業と連動しながら調査を進めた。	引き続き実施する。
	市内出土資料調査	年間を通して実施する。	0 回	-	対象となる資料や調査機会に恵まれず未実施である。	引き続き実施する。
	博物館資料の管理（資料台帳のデジタル化）	収蔵品の管理	実施しなかった。	C	収蔵品台帳の再整備は市史編纂が終了するまで延期することとした。	令和8年度以降に再開する。
	博物館資料の管理（図書及び関係機関住所等）	年間約1,000点を登録予定	年間を通して663冊を登録した。	B	博物館関連団体に関する情報及び寄贈図書を整理登録した。	寄附資料や常設展示資料の台帳整備も合わせて進める。
	各種研究会への参加、各地博物館等の視察	年間10回以上	15回	B	研究会参加や考古資料、図書の調査、博物館視察などを積極的に実施した。	引き続き実施する。
	文化財担当関係調査（史跡保存活用等）	年間を通して実施する。	17回	A	曾谷貝塚や下総国分寺などの史跡保存活用計画作成、国府・国分寺の調査現場視察や助言、国府サミット開催協力やVR映像製作を指導した。	引き続き実施する。
	市史編纂関係調査		年間を通して実施した。	B	第1巻の刊行に協力した。	未定である。
	赤米調査（簡単な古代米栽培）	5～11月	年間を通して実施した。	B	栽培しながら一部を館入口で公開し、収穫後も頒布を展示し配布した。	3種を栽培する予定である。
展示事業		目標又は予定	実施及び達成状況	評価	評価根拠	次年度への課題等
展示事業	常設展示	年間を通して実施する。	14,544人	B	年間を通して開館した。	引き続き実施する。
	常設展示解説	年間を通して実施した。	398人	C	学芸員から声がけをするなど実施したが半減した（776人→48.8%減）。	小学3年生対応減の影響大、週末を中心に改めて積極的な声がけをこころがけたい。
	ホール小企画展1「鬼高遺跡の宝もの」	前年度～7/31	前年度4,821人	B	前年度の館務実習生が製作した。	
	ホール小企画展2「堀ノ内・曾谷・姥山」	8/9～次年度	8/9～次年度9,351人	B	館務実習をコロナ前の日程に近い10日間で実施し、小展示を製作した。	企画展「よみがえる曾谷貝塚」開催の機運を高める目的で、縄文時代を題材に計画する。

令和7年度 考古博物館 事業実施状況評価

教育普及事業 ①全市民対象					
事業名	目標又は予定	実施及び達成状況	評価	評価根拠	次年度への課題等
歴史セミナー	6/14～3/14	4回 92人	B	歴史カレッジの後継講座で、考古は全9回のうち4回を担当した。	引き続き実施する。
歴史セミナー公開講演会			-	令和7年度は歴史博物館が担当した。	令和8年度は考古博物館が担当する。
考古博物館講座「『続日本紀』を読む」	月1回	続日本紀 10回、434人	B	多様な学びを市民に提供する一環として歴史講座を長年開催している。	令和8年度まで実施する予定である。
講演会「『日本考古学』における有史時代と瓦」	50人	62人	B	山路学芸員の最後の単独事業。	
ボランティア養成講座	3種 5回		-	縄文、火おこし、組紐の各グループで出席人数が安定しているため新規募集を見送った。	次年度も人数の増減を考慮して判断する。
ボランティア研修日・活動日	年間を通して、実施する。	180人	B	縄文、火おこし、組紐の目的意識や技術の維持、情報交換のために積極的に実施した。	引き続き実施する。
体験学習 (組紐・勾玉・土偶づくり・縄文服・火おこし)	前年度と同程度の実績	64回、1,021人	B	開催回数、人数とも令和6年度同程度であった。	同等程度の実績を目指して引き続き実施する。
夏休みスタンプラリー	夏休み期間中	442人	A	3割近く減少した令和6年度実績(362人)から22%上昇し、やや持ち直した。	同等程度の実績を目指して引き続き実施する。
オータムフェスタ	11/15	104人	C	貝塚公園でサックスコンサートを開催した。事業の周知方法は要改善である。	文化振興財団との調整を踏まえて、史跡は博物館が体験学習等で活用しつつ、コンサートは考古館内で開催する方向である。
土器・土偶をつくろう	11～12月	4回、のべ80人	B	例年どおり開催した。	引き続き実施する。
縄文体験フェスティバル	3/22	668人	B	前年よりは少ないが盛況であった。	引き続き実施する。
市川市民まつり	11/3	261人	B	組紐ワークショップを実施した。	引き続き実施する。
コルトンプラザ組紐	11/8	89人	B	組紐ワークショップを実施した。	依頼があれば実施する。
ICHIC0ポイント事業	年間を通じて実施	歴史年表248人、アンケート1000人以上、ボラ518人	B	来館者や事業参加者、博物館ボランティアにデジタル地域通貨ICHIC0ポイントを差し上げた。	引き続き実施する。
VR映像視聴	国府サミット終了後より実施	478人	B	下総国府、下総国分寺、北下遺跡のVR映像をGoogleで視聴していただいた。	引き続き実施する。

令和7年度 考古博物館 事業実施状況評価

	事業名	目標又は予定	実施及び達成状況	評価	評価根拠	次年度への課題等
教育普及事業②学校連携	学校巡回展「直刀」	国分地域近隣の小学校	4校 1,899人	B	国分地域で出土した寄贈直刀を紹介した。	現在のホール小展示を巡回する。
	小学校向け体験学習指導	依頼次第で対応。	12校で実施 992人 (31.7%減)	B	公民分野から始まる6年生のカリキュラムや、教員労働環境改善志向により減少傾向か。	一部来館形で実施する。
	中学生職場体験指導	依頼次第で対応。	5校 10人	B	依頼を受けて実施した。	依頼があれば実施する。
	高校生ボランティア活動支援	依頼次第で対応。	未実施	-	依頼がなかった。	依頼があれば実施する。
	小・中・高校生調べ学習指導	依頼次第で対応。	実施	B	随時、対応しているが、概ね満足していただいている。	依頼があれば実施する。
	大学生学芸員課程館務実習指導	6/27、7/29～8/8	6大学、6人	B	小企画展の製作を中心に実習した。	次年度も継続して実施する。
	大学生展示見学指導	8/26	1回 24人	B	大学コンソーシアム市川から見学の依頼があった。	要請があれば、対応していく。
	千葉商科大学出張展示	年間を通じて実施する。	実施	B	常設展示、10月に清掃・点検。	次年度も継続して実施する。
	中堅教諭等資質向上研修	依頼次第で対応。	未実施	B	要請がなかった。	要請があれば、対応していく。
教育普及事業③地域連携	友の会事業への協力	依頼次第で対応。	年間を通して実施した。	B	講演や見学会、会報「かいづか」への執筆などに協力した。	要請があれば協力する。
	公民館講座	依頼次第で対応。	2回 103人	B	西部公民館の主催事業に協力した。	要請があれば協力する。
	地域まつりへの出張展示、解説体験指導	依頼次第で対応。	8件 1,045人	A	曾谷縄文まつり、市民まつりなどに参加した。	今後も地域まつりには積極的に出展する。
	市内公共施設出張展示および解説	依頼次第で対応。	1件 1,700人	B	国府サミットで展示や解説、VR映像視聴などを実施した。	自主事業としては学校巡回展を優先したい。
	外部依頼講座	依頼次第で対応。	1件 144人	B	依頼により市川市内外の事業に協力した。	要請があれば協力する。

令和7年度 考古博物館 事業実施状況評価

事業名	目標又は予定	実施及び達成状況	評価	評価根拠	次年度への課題等
館報第53号発行	3月、600部	3月、600部	B	令和6年度事業の実績と、学芸員3人の研究紀要を掲載した。	今後も継続して発行する。
考古・歴史博物館 だよりの制作及び発行	4回/年	4回/年	B	博物館のコラムや事業告知等を掲載した。	制作及び発行を継続する。
令和7年度考古・歴史 博物館入館案内の発行	3月、10,000部	未実施	-	今年度から歴史博物館が編集を担当する。	
公式Webサイト、SNS等運 営、DTP機器管理	年間を通して実施 する。	年間を通して実施 した。	B	DTPソフトが不調になりがちであったため、管理業 者を通じた調整をたびたび実施した。	引き続き実施する。
施設の維持管理	年間を通して実施 する。	年間を通して実施 した。	B	トイレやエアコンの改修を春、及び、秋～冬に実施 した。	エレベーターの修繕は次年度に実施する。
施設整備（休館）	2月上旬	休館せずに清掃を 実施	B	上述により臨時休館は未実施、清掃は随時実施し た。	引き続き実施する。
登録博物館再登録	年度内に登録す る。	文書提出後、3/5 に県視察	B	再登録が内定した。	

運営

令和7年度 歴史博物館 事業実施状況評価

評 価 A:参加者数、内容、満足度全てに見込み以上の成果を得た(90%上)
 B:ほぼ見込み通りの成果を得た(75～80%程度)
 基 C:改善の余地あり(60%程度)
 準 D:実施を含めて検討の要あり(50%下)
 — 事業未実施のため、評価できず

事業名					評価	評価根拠	次年度への課題等
収蔵資料の調査研究、整理及び維持管理					B	館蔵古文書資料(1000点余り)の再整理、館蔵民俗資料(110点余り)の再整理が進んだ。	松沢家文書(約1200点)の再整理の完了と、未整理資料の整理を目指す。民俗資料は収蔵番号の確認と調査・番号無し資料の台帳登録を引き続き実施していく。
市内学校所蔵資料調査					—	—	郷土学習室のリニューアル等の要望があれば、協力をする。
資料及び古写真のデータベース化					B	年間10家分(約1000点)の目録を作成。民俗約110点を台帳再登録	次年度も引き続き実施。台帳に情報を追記し、管理を容易にする。
博物館資料の管理(図書及び関係機関住所等管理)					B	年間を通して昨年度と同数程度を登録予定。	図書庫ひっ迫に伴い、重複図書の廃棄なども含め整理・登録作業を継続する。
各種研究会への参加、各地博物館の見学					B	年間(10回以上)を通して実施する。	次年度も引き続き実施し、資料の保存活用や事業に生かす。

収 集 ・ 保 管 及 び 調 査 研 究 事 業

令和7年度 歴史博物館 事業実施状況評価

事業名		目標又は予定	実施及び達成状況	評価	評価根拠	次年度への課題等
展示事業	常設展示	年間を通して実施する。	入館者数21,381人	B	年間を通して開館した。古民家内の一部の資料キャプションを「夏休み子ども一日学芸員」で子供が製作したものを追加した。	キャプションの変更や、展示資料の収蔵番号の再確認、清掃を行う。
	学校連携学習資料展 「発見・体験 音の暮らし」	小学校3年生の学習単元に合わせて実施	9/7～1/18 入館者数7,011人	B	前年度に比べ会期が1週間短くなり、インフルエンザの流行などで見学が無くなった学校もあったため入館者数が減少した。	再現展示の充実や体験できる展示(唐箕・石臼等)を増やす。
	小企画展「季節の展示」等	季節に合わせ、年間2～3回実施	①「全力男子」 4/26～6/1 入館者数2,122人 ②「ちよつと怖い絵」7/19～9/1 入館者数5,072人	B	①は前年と比べ会期が約1か月短いため、入館者数が減っている。②は前年と同数。年間を通して実施。	季節の展示はテーマが固定されてきているので、展示内容の変更や充実化が必要。
	収蔵庫整理展 第2回収蔵庫整理事業報告展示「見つめなおす、市川の宝物」	収蔵庫整理に合わせその成果として実施	7/5～1/18 入館者数11,403人	A	昨年に引き続き、学生と協働して収蔵庫整理を行い、海苔道具を中心に清掃、現状調査、デジタル撮影、成果報告展示を実施した。	作成したリーフレットも380部はけるなど好評のため、次年度も収蔵庫整理事業と合わせて実施する。
	収蔵資料展 (館務実習展)	博物館実習の成果として実施。	9/13～1/18 入館者数6,498人	A	終戦から80周年を記念して、戦後の人々の生活に注目した展示「戦後を生きる一引揚と闇市の記憶―」を実施。シベリア抑留や引揚げ資料を展示。	戦後80年ということもあり、新聞の取材が来るなど、注目される展示であった。来年度も引き続き学生自身に説明文作成をはじめとした展示作業を行ってもらおう。
	企画展示 「本山桂川と閑話叢書 一刊行から100年―展」	機会があれば実施したい	入館者数4,275人	A	南方熊楠記念館の依頼により実施。多くの本山桂川関係者や研究者が来館。関係論文掲載の館報が多く持ち帰り、好評だった。	引き続き関係各所と連携した展示を行いたい。
	常設展示解説	年間を通して実施する。	39回、211人	B	前年度より10回・100人増加。希望者に実施しており、随時受け付けている。	引き続き実施する。

令和7年度 歴史博物館 事業実施状況評価

事業名	目標又は予定	実施及び達成状況	評価	評価根拠	次年度への課題等
古文書講座初級編(近世)	全3回 受講生20名程度	第一回28人 第二回29人 第三回26人	A	古文書写真を見ながら解説を行った。字の崩れ方を板書で教えるため、初心者におおむね好評であった。	実施回数や募集人数、募集方法、難易度等を再検討。
史跡見学会	—	—	—	行徳まつり参加のため実施できなかった	時期や場所、対象年齢を再検討する。
体験学習指導員研修	10回	11回、55人	B	体験講座・古文書整理・資料修復等博物館事業の補助等を実施した。	引き続き実施する。指導員の数を増やしていきたい。
昔の遊び体験(紙芝居、紋切り遊び、火打ち石、お手玉遊び、工作)	第1・第3日曜日 第2・第4土曜日	45回、750人	A	SNSや掲示でアナウンスを行い、小学校見学でも先生に配布したことで前年より参加者が増えた。	引き続き宣伝をし、リピーターを増やす。
季節の行事体験 (わらりーす・正月飾り作り)	12月	12/14、15人	B	飾り付け用の紙垂や折り紙を準備し、藁のいのち、飾り付けを実施。	引き続き実施する。好評のため、実施回数を増やすことを検討。
昔の暮らし等の体験講座(竹の水鉄砲作り、和綴じ本作り、子ども一日学芸員)	7月、8月	和綴じ本 7/20 8人 竹の水鉄砲8/3、17 15人 子ども学芸員8/10 2人	B	酷暑のため洗濯体験を実施せず、代わりに竹の水鉄砲作りを2回実施。新規に子ども一日学芸員を実施。キャプシヨンづくりやバックヤード見学など好評であった。	イベント3件を同時に申し込めない仕様になっていたため、改善する。
夏休みスタンプラリー	夏休み期間中	421人	A	昨年度に続き実施。人数が微増。	広報やSNSを活用し宣伝。引き続き実施する。
歴史セミナー	11/9～2/8	4回、101人 講演会含め239人	B	歴史博物館は全8回の内5回担当した。講演会「江戸時代の市川の歴史」では138人が聴講。	市民が興味を持つような講義内容を充実させる。
オータムフェスタ	11/15	102人	C	演奏会や紋切り遊び等昔のあそびを実施。博物館ボランティアに協力していただいた。	SNSでの広報が少なく、参加者が少なかった。次年度は市のSNSやLINEの活用なども検討し、参加者を増やす。
縄文体験フェスティバル	3/23	668人	B	火打ち石やお手玉、当日限定の紋様の紋切り遊び等を実施。	前年より人数が減少。広報でのアナウンスを充実させる必要あり。

教育普及事業 ①全市民対象

令和7年度 歴史博物館 事業実施状況評価

事業名	目標又は予定	実施及び達成状況	評価	評価根拠	次年度への課題等
学校巡回展、教材用資料貸出、出前授業	申し込みを受けて実施する。	出前授業 3校 301人 資料貸出 2校	B	昭和学院小・宮田小・宮久保小で「昔のくらし」の出前授業を実施し、昭和学院高等学校に戦時期の資料を貸出した。	申し込みがあれば実施する。
小学生向け体験学習指導 (昔のくらし体験)	申し込みを受けて実施する。	18校、1,528人	B	今年度も学校連携学習資料展「発見・体験のくらし」を利用した体験学習を実施した。	近年来館していない学校もあることから、小学校への案内を引き続き実施する。
中学生職場体験指導	申し込みを受けて実施する。	4校、8人	B	4校の申し込みを受けて実施した。	申し込みがあれば実施する。
小・中・高校生調べ学習指導	申し込みを受けて実施する。	実施した。	B	随時、対応している。	申し込みがあれば実施する。
大学生学芸員課程 館務実習指導	9/1、9/8～9/15に実施する。	4大学、4人	B	ガイダンスを含めて8日間実施した。	引き続き実施する。早めにWEB更新し、学生の早期の問い合わせに対応できるようにする。
大学生展示見学指導	申し込みを受けて実施する。	駒澤大学 6人 大学コンソーシアム市川 24人	B	展示解説を行った。	依頼があれば、対応していく。
國學院大學と協定を締結	—	—	—	11月11日に「市川市教育委員会と國學院大學との連携に関する協定書」に基づき協定を締結した。	次年度より協定書に基づき収蔵庫整理等事業を実施
教員対象フォローアップ研修	申し込みを受けて実施する。	—	—	依頼がないため実施していない	申し込みがあれば実施する。

教育普及事業 ②学校連携

令和7年度 歴史博物館 事業実施状況評価

	目標又は予定	実施及び達成状況	評価	評価根拠	次年度への課題等
教育普及事業 ③地域連携	博物館友の会事業への協力	年間を通して実施する。	B	活動場所の提供、講演会講師、会報の原稿執筆、調査協力などを行った。	要請があれば協力をする。
	公民館講座（公民館主催講座への講師派遣）	申し込みを受けて実施する。 県高公民館5/29 行徳公民館11/22 県高公民館1/23	B	全3回、86人の参加があった。	要請があれば協力をする。
	地域まつりへの出張展示、展示解説及び体験指導	行徳まつり 10/26 80人 南行徳公園	B	初出し、博物館の広報と紋切り遊びを実施。常夜灯の紋様が好評で良い博物館の宣伝になった。	行徳地域の人で博物館を知らない人が多い印象であった。次年度も参加し、広報する予定。
	外部依頼講座	年間を通して実施する。 3回 85人	B	講座の講師依頼が3件あり協力をした。	要請があれば協力をする。
運営	令和6年度歴史博物館報（紀要）の制作及び発行	3月、500部 3月に500部を発行した。	B	博物館活動の年間記録及び調査研究の成果を、他の博物館や一般市民等に提供した。	今後も継続して発行する。
	考古・歴史博物館だよりの制作及び発行	4回／年 4回／年	B	博物館の事業内容や学芸員のコラム等を紹介した。	今後も継続して発行する。
	令和8年度考古・歴史博物館行事案内の発行	3月、10,000部 3月、10,000部	B	デザインの行事を修正した。	今後も継続して発行する。
	施設の維持管理及び庶務事務	年間を通して実施する。	B	限られた予算内で適切な施設維持管理に努めた。	施設維持に必要な予算を要求する。

令和7年度 自然博物館 事業実施状況評価

評 価 基 準
A:参加者数、内容、満足度全てに見込み以上の成果を得た(90%上)
B:ほぼ見込み通りの成果を得た(75～80%程度)
C:改善の余地あり(60%程度)
D:実施を含めて検討の要あり(50%下)

事業名	目標又は予定	実施及び達成状況	評価	評価根拠	次年度への課題等
収集資料の調査・整理及び専用パソコン管理	・収集資料の調査・整理を進め、収集資料台帳を整備して専用パソコンとして管理する。 ・収集資料台帳の内容を簡略化して標準リストを作成し、準備が整った5つのリストのweb公開を行う。	・鳥類、昆虫、岩石の資料調査・整理を進めた。 ・準備していた5つの標準リストのうち、植物と貝類についてwebで公開した。	B	ボランティアの方の協力を得て資料調査・整理を進め、植物と貝類の標準リストを公開したが、予定していた鳥類、昆虫(鱗翅類)、昆虫(鞘翅類)は公開できなかった。	鳥類、昆虫(鱗翅類)、昆虫(鞘翅類)の標準リストを公開する。
資料の電子化	新規データ、未整理データの整理を進める。	データのラベル付けが進んだ。	B	未整理データのうち、画像および動画データの整理はおおむねリアルタイムで進められたが、ファイルデータの電子化が進まなかった。	継続する
図書管理	図書を整理し、図書台帳をエクセルファイルで作成する。	・図書台帳の作成を進めるとともに、一部をweb公開した。	B	ボランティアの方の協力を得て書庫の整理を進め、図書台帳の作成を行った。	継続する
長田谷津に関する調査、環境改善、絶滅危惧種保全など	国絶滅危惧種スナヤツメについて、市民参加の保全活動を行い(10回実施予定)、学芸員による保全活動も行う。	・スナヤツメ・レスキューとして市民参加の保全活動を行った(実施8回、雨天中止2回、参加17人)。 ・ごく少数の生息を確認したが繁殖行動は確認できなかった。	C	繁殖行動が確認できなかったことは、前年度より個体群の状況が悪化しているという推測で、取り組みの成果が挙がっていないと思われる。	市民参加の保全活動を年10回実施する予定。学芸員による保全活動も継続する。

国絶滅危惧種ホトケドジョウについて、市民参加の保全活動を行い（10回実施予定）、学芸員による保全活動も行おう。	・ホトケドジョウとウ・レスキエーの保全活動を行った（実施9回、降雪中止1回、参加17人）。 ・春に繁殖行動および多くの幼魚を確認したが、秋の幼魚の確認数、冬の成魚の確認数が少なかった。	C	春の再生産個体が次シーズンまで維持されていない可能性があり、原因の究明と対策が必須と思われる。	市民参加の保全活動を年10回実施する予定。 学芸員による保全活動も継続する。
国絶滅危惧種カワモツク類の保全活動を行う。	・大学院生の調査により安定した個体群が継続されていることが確認された。 ・かつての調査データをweb公開した。	B	安定した個体群が維持されていた。	大学院生の研究で明らかになった課題を解決し、個体群の規模をかつての規模まで戻していく。
県絶滅危惧種ニホンアカガエルについて市民参加の保全活動を行い（10回実施予定）、学芸員による保全活動も行おう。	・長田谷津湿地環境整備として市民参加の保全活動を行った（実施9回、雨天中止1回、参加38人）。 ・多数の卵塊を確認し、安定した繁殖が行われていることがわかった。	A	過去10年で2番目に多い卵塊数を確認し、長く産卵が見られなかった区域でも18の卵塊を確認した。	ニホンアカガエルの生息に適した環境の保全を継続する。
ヘイケボタルの保全活動をニホンアカガエルの保全活動と兼ねる形で行い、学芸員による保全活動も行おう。	・長田谷津湿地環境整備として市民参加の保全活動を行った ・青年会議所のイベントで100匹を超過す幼虫の放流を行った。 ・生息状況に大きな変化がなかった。	B	数や発生個所についてこれまでの状況が維持されていた。	生息に適した環境の場所を増やし、発生数を増やしていく。

令和7年度 自然博物館 事業実施状況評価

	生物調査の継続的な実施	目視調査、画像撮影、動画撮影、自動撮影装置による動画撮影などを行った。	B	調査を実施し記録を取ることでできた。記録の一部は「自然観察週報」としてwebサイトで即時的に公開した（タイムラグはおよそ2週間）。	継続する。
トビハゼ調査	東京湾奥の数少ないトビハゼ個体群について巣穴調査、稚魚調査を行うほか、適宜、観察して現状を把握する。	例年通りの調査を行った。	B	巣穴調査、稚魚調査を実施し、巣穴数・稚魚数を把握した。また、「トビハゼ保全施設連絡会」に参加した。	当館で行っているのは調査のみなので、保全のための枠組みの構築が求められる。
ヒヌマイトントンボ調査	国絶滅危惧種であり市川市指定天然記念物でもあるヒヌマイトントンボの生息確認調査を行う。	例年通りの調査を行った。	B	ヒヌマイトントンボの生息を確認した。	当館で行っているのは調査のみなので、保全のための枠組みの構築が求められる。
剥製製作委託	予算に応じて実施する。	鳥類の剥製製作を委託した。	A	予定よりも多い鳥類の剥製標本を作製した。	毎年、一定数を作製できるように予算を維持する。
各種研究会への参加、関連施設の視察	適宜実施する。	県立中央博物館の企画展を見学し、担当学芸員と情報交換を行った。	C	視察は1件にとどまった。	新世代学芸員の研修機会を増やしたい。

令和7年度 自然博物館 事業実施状況評価

事業名	目標又は予定	実施及び達成状況	評価	評価根拠	次年度への課題等
常設展示	前年同月並みの入館者数を維持する。	入館者数の前年同月対比(月の数) 110%以上 2 90～110% 4 70～90% 4 70%未満 0 休館 2 (1日のみ開館) 年度合計 前年比 80.9%	B	対前年比が90%を割った(106,054人)が、令和7年度の開館が10か月、前年度は12か月の開館であり、その影響があると考えられる。	前年同月対比は月により変動があるが、各月において動物園に入園した人が博物館の展示室を訪れるように、動物園などと連携した情報の発信を工夫する。
特別展示室の常時活用(飼育展示など)	常設展示と同じ	常設展示と同じ	B	上記と同じ	上記と同じ
ホール小展示(飼育展示など)	常設展示と同じ	常設展示と同じ	B	上記と同じ	上記と同じ
展示解説	臨機応変に行う。	学芸員が展示室やフロアを流動的に移動し、必要な来館者対応を行った。	A	・展示室やフロアで、学芸員と来館者がコミュニケーションをとる機会を多く生み出すことができた。 ・全国的にも数少ないナナフシモドキのオスの飼育展示を行い、多くの時間を割いて来館者への個別解説を行った。ちようどうインバウンドの来館者が多かったタイミンだったので、ナナフシモドキのオスについては英語表記の解説も掲示した。	継続する。

展示事業

令和7年度 自然博物館 事業実施状況評価

①教育普及事業対象	長田谷津散策会	年12回実施し、1回あたり20人の参加を目指す。	12回計画し、実施12回。1回の平均参加者数は26.5人だった。	A	計画した回数を実施し、1回の平均参加者数が目標を30%上回った	継続する。
-----------	---------	--------------------------	----------------------------------	---	---------------------------------	-------

事業名		目標又は予定	実施及び達成状況	評価	評価根拠	次年度への課題等
教育普及事業 ②学校連携	出前授業	申し込みを受けて実施する。	16回実施し、1,661人の参加があった。	B	依頼に応じることができた。	依頼に応じて実施する。
	グリーンスクール	申し込みを受けて実施する。	8回実施し、524人の参加があった。	B	依頼に応じることができた。	依頼に応じて実施する。
	その他	申し込みを受けて実施する。	9回実施し、89人の参加があった。	B	依頼に応じることができた。	依頼に応じて実施する。
	大学生学芸員課程館務実習指導	申し込みを受けて実施する。	3大学3名の学生が実習を行った。	A	来館者とのコミュニケーションを実践するなど、地域博物館らしい内容の実習を行っており、実習参加者から有意義であったとの評価を得た。	依頼に応じて実施する。

令和7年度 自然博物館 事業実施状況評価

事業名	目標又は予定	実施及び達成状況	評価	評価根拠	次年度への課題
教育普及事業 ③地域連携	一般講師派遣 申し込みを受けて実施する。	34回実施し、652人の参加があった。	B	依頼に応じることができた。	依頼に応じて実施する。

運営	自然博物館だよりの制作及び発行	隔月発行	実施した。	B	予定通り発行した。	予定通り発行する。
	令和5年度、6年度の自然博物館年報の制作及び発行	8月 500部（5年度） 3月 500部（6年度）	実施した。	B		予定通り発行する。
	施設の維持管理及び庶務事務	年間を通して実施する。	実施した。	B	博物館運営に必要な設備の更新等を適宜行い、安定的な運営に努めた。	継続する。

令和8年度 自然博物館 事業計画

事業種別		事業名	予定日及び見込み数
収集・保管及び調査研究		1. 収蔵資料の調査・整理及び専用パソコン管理（ボランティア作業含む）	年間を通じて実施
		2. 画像・動画資料の調査・整理及び専用パソコン管理	年間を通じて実施
		3. 図書管理（ボランティア作業含む）	年間を通じて実施
		4. 長田谷津の調査、環境改善、絶滅危惧種保全など	年間を通じて実施
		5. トビハゼ調査	7月と10月に各1回
		6. ヒヌマイトトンボ調査	7月に数回
		7. 剥製制作委託	3月に1回
		8. 各種研究会への参加、関連施設の視察	可能な範囲で実施
展示		1. 常設展（市川の自然）	年間を通じて実施
		2. 特別展示室の常時活用（飼育展示など）	年間を通じて実施
		3. ホール小展示（飼育展示など）	年間を通じて実施
		4. 展示解説	適宜
市民向けの教育普及	生涯学習拠点として市民の学びと体験を支える事業	1. 長田谷津散策会	毎月1回で12回
		2. 15分ミニ解説	毎月1回で12回
学校関連の教育普及	子どもの成長や学びを支援する事業	1. 出張授業	依頼により実施
		2. グリーンスクール	依頼により実施
		3. その他（部活支援、職場体験・職業講和、教員研修など）	依頼により実施
		4. 大学生学芸員課程館務実習指導	8/1(土)～8/12(水)
地域連携の教育普及	地域の文化やコミュニティをサポートする事業	1. 一般講師派遣（関係課、公民館、市民団体等）	依頼により実施
運営		1. 自然博物館だよりの制作及び発行	1,500部/6回（隔月）
		2. 令和7年度自然博物館年報（No.37）発行	500部 8月
		3. 施設の維持管理及び庶務事務	毎日

令和7年度 事業実施状況に対する外部評価

評価基準 A：参加者数、内容、参加者満足度すべてに見込みを上回る成果を得ることができた。（目標の90％以上）
B：ほぼ見込みどおりの結果を得た。（目標の80～75％程度）
C：改善の余地があるものと考えられる。（目標の60％程度）
D：今後の計画に際しては、実施を含めて検討する必要があると思われる。（目標の50％に満たない）

事業種別	館名	館別意見（概略）	館別自己評価	総合自己評価	外部意見等	外部評価
収集・調査・保管及び研究	考古	曾谷貝塚や下総国分寺などの史跡保存活用計画を作成したほか、国府、国分寺の現地視察や助言、国府サミット開催協力やVR映像製作を指導した。	A	B		
	歴史	新着収蔵の古文書資料や館蔵資料の整理や目録作成が進んだほか、図書整理や研究会参加も年間を通して実施した。	B			
	自然	資料の整理、台帳の電子化、未整理分のデータベース化を進めた。また、国及び県等の絶滅危惧種等の調査・保全に努めた。	B			
展示	考古	年間を通して開館し、小企画展「鬼高遺跡の宝もの」「堀ノ内、曾谷・姥山」、学校巡回展、展示解説などを開催した。	B	B		
	歴史	年間を通して開館し、小企画展「季節の展示」のほか、学校連携学習資料展など収蔵資料展を5件開催した。	A			
	自然	年間を通じて常設展示や生き物を飼育して見せる飼育展示を行い、来館者は前年度と同水準で推移した。また、飼育展示については、特に学芸員が来館者と積極的にコミュニケーションを図り、わかりやすい解説に努めた。	B			
市民向けの教育普及	考古	下総国府、下総国分寺、北下遺跡のVR映像をGoogleで視聴できるようにしたほか、体験学習や歴史セミナー、公開講演会などを実施。また、夏休みには子供向けのスタンプラリーを開催した。	A	A		
	歴史	古文書講座初級編の開催のほか、昔の遊びなどの体験学習や歴史セミナーの開催。また、夏休みには子供向けのスタンプラリーを開催した。	A			
	自然	「長田谷津散策会」は、広報やwebサイト等の活用により、平均参加者数が令和7年度は目標を約30％上回った。	A			
学校関連の教育普及	考古	市内小・中学校や大学からのすべての依頼に協力した。	B	B		
	歴史	市内小・中学校や大学からのすべての依頼に協力した。	B			
	自然	市内小学校や幼稚園、大学等からの教育普及依頼全てに対応した。	B			
地域連携の教育普及	考古	地域まつりなどに参加。また、公民館などの外部機関からの依頼に協力するとともに、市内公共施設で出張展示を実施した。	B	B		
	歴史	地域まつりなどに参加。また、博物館友の会の自主事業や公民館などの外部機関からの依頼に協力するとともに、市内公共施設で出張展示を実施した。	B			
	自然	自治会や市民団体、市関係機関からの教育普及依頼に対応した。	B			
運営	考古	予定どおり博物館だよりや年報を発行し、行事や事業・研究実績などを周知するとともに、登録博物館の再登録を行い、再登録に内定した。また、博物館運営に必要な設備の更新等を適宜行い、安定的な運営に努めた。	B	B		
	歴史	予定どおり博物館だよりや年報を発行し、行事や事業・研究実績などを周知するとともに、登録博物館の再登録を行い、再登録に内定した。また、博物館運営に必要な設備の更新等を適宜行い、安定的な運営に努めた。	B			
	自然	博物館だよりや年報を予定どおり発行したほか、博物館運営に必要な設備の更新等を適宜行い、安定的な運営に努めた。	B			